

医学一般総括

Review of Basic Medicine

コース責任者

予防医学教授 高田 礼子

1. 学習目標

1) 一般目標 (G I O)

科学的根拠に基づく臨床のできる学生医に必要な基本的な医学的知識を磐石なものとするために、基本的医学知識を深め、病態解析に必要な能力を修得し、常に自己研鑽を怠らず自らの学習を振り返る態度を身につける。

2) 行動目標 (S B O s)

- (1) 細胞傷害・変性と細胞死の病因と細胞・組織の形態的变化を理解する。
- (2) 遺伝子からタンパク質への流れにもとづいて生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用やヒトゲノムの解析を理解する。
- (3) 循環障害の病因と病態を理解する。
- (4) 炎症の概念と感染症との関係、またそれらの治癒過程を理解する。
- (5) 細胞の微細構造と機能を理解する。
- (6) 組織集団としての組織・臓器の構成と方向用語を理解する。
- (7) 検査の精度と臨床疫学的指標についての基本的事項を理解する。
- (8) 生体物質の代謝の動態を理解する。
- (9) 細胞膜の基本的な機能について理解する。
- (10) 細胞内外のイオンの流れ、役割、機序、について理解する。
- (11) 器官の機能と方向用語を理解する。
- (12) 個体と器官が形成される発生過程を理解する。
- (13) 生体の酸の産生と恒常性維持に関して理解する。
- (14) 科学的根拠に基づく臨床のできる学生医を目指すために、臨床実習前に基本的な医学的知識と病態解析に必要な自己の能力を再確認する。
- (15) 脂質代謝の動態を理解する。
- (16) タンパク質、核酸代謝の動態を理解する。
- (17) 種々の寄生虫の基本構造を図示し、病原性とそれによって生じる病態を理解する。
- (18) ウイルスの基本性状とウイルス感染によって生じる病態を理解する。
- (19) 生体の恒常性を維持するための生体防御の機序を理解する。/種々のウイルスの病原性とそれによって生じる疾患を理解する。
- (20) 種々の細菌、真菌の基本構造、病原性、それによって生じる病態を理解する。
- (21) 生体の水分維持の調節機構について理解する。
- (22) 生物の進化と多様性を理解する。
- (23) 免疫の機構を分子レベルで理解し、生体で起きる免疫系の反応を理解する。

- (24) 病原体に対する免疫反応、主な自己免疫疾患、先天性および後天性免疫不全症とがん細胞に対する免疫系の反応を理解する。
- (25) 医学・医療の分野に広く応用されている放射線や放射線以外の電磁波などの医学への応用について理解する。
- (26) 医学・医療と社会の領域に関して、社会・環境と健康、疫学と予防医学、生活習慣と疾病について復習し、理解する。
- (27) 医学・医療と社会の領域に関して、保健、医療、福祉と介護の制度について復習し、理解する。

2. 学習内容

授業では低学年からの医系自然科学、基礎医学系、及び医学・医療と社会を中心に知識を再認識し、より深めるために、各分野から、学生が自己学習を通じた再履修の契機になるべく、総括的講義を行う、もしくは病態解析に役立つ知識を重点的に教授する。但し、各分野を網羅的に再履修するためには、この講義を中心とした自己学習が必要不可欠である。

3. 成績評価

総括的評価は中間試験・定期試験で行う。態度領域は受講態度並びに出席率で測定する。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	80(%)	前後期期末試験期間中に実施する。
随時試験	1	20(%)	授業時間中に中間試験を実施する。
授業態度	-	-	態度に問題がある場合は減点とする。

4. 教科書・参考書

第1～3学年まで使用したそれぞれの分野の教科書、教材を参考にする。

5. 準備学習

各講義前に第1～3学年までの該当コースの教科書、ノート・配布資料等を基に復習しておくこと。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
予防医学 (環境保健、健康 増進・疫学)	教授	高田 礼子	月曜日 12時30分～13時30分	医学部本館4階 予防医学教室	3425 (内線)